

異文化交流プログラム向け情報教育の検討

皆川雅章*1

Email: minagawa@sgu.ac.jp

*1: 札幌学院大学法学部法律学科

◎Key Words 異文化交流, 情報教育, グループワーク

1. はじめに

本学では現在、留学に限らず様々な形で、学生の異文化交流・体験の促進を図っている。筆者は今年度から、この趣旨に基づき開講されたグローバル科目群のなかの異文化グループワークという科目を担当している。この担当科目は2017年の後期から開講される予定になっており、現段階での講義内容・方法の検討結果を示す。

この検討においては、国によって異なる通信事情の知識、クラウドサービスやSNSの利用方法の習得、翻訳などコミュニケーションを促進するスマートフォンアプリ、オンラインストレージを用いた画像などの記録の共有方法の習得など、実践的な知識を身につけさせることを目指している。

2. プログラム概要

2.1 グローバル科目群

グローバル科目群は教養科目として、「生涯にわたって自律的に学び続ける力」と「グローバルと地域の視点から社会に貢献する力」を獲得することを目的として2017年度から開講されている科目群であり、以下のような科目から構成されている

表1 グローバル科目群

- | |
|----------------------|
| ①異文化グループワーク A, B |
| ②プロジェクトマネジメント入門 |
| ③TOEIC トレーニング A, B |
| ④TOEIC トレーニング C, D |
| ⑤海外スタディ I, II |
| ⑥グローバルインターンシップ I, II |
| ⑦グローバルボランティア I, II |

①では留学生と共通課題に取り組み、体験的に異文化の理解を深める。②は⑤、⑥、⑦において必要なマネジメント手法とリスク管理を学ぶ。③、④は実践的・実用的な英語能力の向上に取り組む。⑤のIでは大学が用意する海外体験学習への参加、IIでは学生自らが計画を立てて遂行する海外学習を行う。⑥のIではマレーシアまたはタイにおいて大学が提供準備するインターンシップに参加、IIは学生自らが計画を立てて参加する海外インターンシップである。⑦のIではタイの協定校の協力のもと、現地小学校でのボランティア活動を行う。IIでは学生自らが海外ボランティア計画を立てて遂行する。⑤、⑥、⑦のいずれにおいても事前・事後の指導が行われる。

2.2 異文化グループワーク

筆者が今回担当するのは異文化グループワーク B である。シラバスに「自分と異なる社会的背景を出自に持ち、異なる言語を話す個人とグループになって課題を解決に導くスキルは、多様な価値観が共存する21世紀型組織・社会においては高く評価されます。この講義ではそうしたスキルを留学生とのグループワークを通じて身につけ、海外実習科目（海外スタディ、グローバルインターンシップ、グローバルボランティア）への導入とします。」と記している。

この科目は、情報教育(筆者)、英語コミュニケーション、言語学を専門とする3名の教員が担当する。3名はこれまでにタイのチェンマイ大学との異文化交流プログラムの引率を担当しており、科目を担当する上で必要な経験と知識を有している。図1は2017年3月に実施した際の本学の参加学生と現地のサポート学生、そして本学に留学していたチェンマイ大学学生の集合写真である。



図1 異文化交流プログラム参加者

この科目では、履修者が留学生とグループワーク形式で共通の課題に取り組み、相互のやりとりを通じて異文化理解について体験的に学ぶ形式を想定している。上述のように、この科目はグローバル科目⑤、⑥、⑦への導入となっており、基礎的な知識・スキルの習得はもとより、海外での活動に向けてコミュニケーション力の育成が不可欠であるため、履修者には積極的な講義参加がもとめられる。

講義内容は、以下に示すように担当教員ごとに ICT、コミュニケーション、言語系の3つのセクションに分かれている。

表2 異文化グループワーク B 講義内容

ICT セクション
①海外の通信事情
②クラウドサービスの活用方法：使えるアプリを探そう
③写真撮影の基礎知識：キレイに撮る方法
④思い出の写真を共有する
⑤プレゼンテーションスキルを磨く：語学力+αの力
コミュニケーションセクション
①Global Hokkaido: Why are Asians coming to Hokkaido? What are the good points of Hokkaido and how to explain Japanese culture .
②Global SGU: Get to know international students in SGU, talking about your own interests, own studies, and future aspirations.
③Global Interchange: Joining an international student online forum. Writing about SGU, Hokkaido and Japan .
④Global English: How to give a presentation in English—five easy points.
⑤Project Presentations: Talking about Hokkaido, Japanese Culture and My Global Future .
言語系セクション
①グループワーク課題：国産車のカタカナ名を 20（例：カローラ）調べてください。
②外来語音、挿入母音：日本語で日常的に使われる音であっても日本語に固有のものとはそうでないものがあるようです。グループワーク課題：外来語アクセントにかんする課題を出します。
③日本語のアクセント：外来語のように比較的均質なアクセントパターンを持つ語種を切り口に日本語のアクセント体系を概観します。グループワーク課題：濁音から始まる地名を 20（例：岐阜）調べてください。
④日本語の清濁：外国人の日本語学習者や日本語学習中の幼児に特有のエラー（言い間違い）を例に、連濁をはじめとする日本語の清音と濁音の別を扱います。課題：母音が無声化しやすい語を 20（例：寄宿舎）調べてください。
⑤母音の無声化：多くの日本人が無意識に発音する無声母音、外国人にはとても聞き取りにくく、また習得も困難です。課題：セクション全体を振り返るグループワーク課題を出します。

3. 情報教育の検討

筆者が担当する ICT セクションの講義内容・方法について記す。筆者は異文化交流を行うに際し、次の3点に関わって講義内の情報教育が必要と考えている。

- ①海外の通信事情に関する知識習得
- ②コミュニケーション手段獲得
- ③情報発信・共有スキル獲得

渡航先の言語や文化を学ぶことと並行して、現地における情報機器やネットワークサービスの活用方法を習得しておくことは、交流の促進に役立つと考えている。表2の ICT セクションにおける講義内容は、この観点から構成されている。

今回の検討に先立ち、2017 年度の新入生に対し、所有している情報機器と使用しているネットワークサービスに関する調査を行った。調査を実施した講義は、1 年次の選択科目で社会科学系学科(法律・経済)の学生が履修している。結果は次の通りである(回答数は 134 名)。

回答者の全員がスマートフォンを所有しているが、PC に比してタブレット型端末の利用は増えていないこ

とがわかった。またコミュニケーションツールとして LINE と Twitter がいずれも高い割合で利用されている。

表3 情報機器とネットワークサービスの利用状況

所有している情報機器	
①スマートフォン	134 (100%)
②タブレット型端末	28 (21%)
③PC(自分専用)	83 (62%)
使用しているネットワークサービス	
①Facebook	31 (23%)
②LINE	132 (99%)
③Twitter	115 (86%)
④mixi	4 (3%)
⑤Gmail/ Yahoo! Mail	66 (49%)
⑥Youtube	115 (86%)
⑦Dropbox	9 (7%)
⑧Instagram	63 (47%)

ICT セクションでは表2の内容を、グループワークをベースとして実施する。上述の調査結果をもとに、履修者は①スマートフォンを所有している、②SNS の利用経験がある、ことを前提に講義を実施する。

各回における実施内容概略は以下の通りである。

①海外の通信事情

通信機器の携帯には充電の問題が伴う。国ごとに電源供給の規格が異なることを知るために、コンセントの形や電圧を調べる。携帯電話会社のローミングサービスの利用方法や料金体系、渡航先における Wifi 利用環境の整備状況を調べる。

②クラウドサービスの活用方法

SNS、Web メールサービスに加え、翻訳や地図アプリなど、海外滞在時に有効に利用できそうなものを調べる。アプリのダウンロード・利用登録を行い、実際に利用してみる。

③写真撮影の基礎知識

デジタルカメラによる撮影の原理、被写体と構図選択の影響について調べる。実際に撮影した写真の相互評価を通じ、記録として「撮影者の意図した情報が伝わる写真」について考える。

④思い出の写真を共有する

国内外において撮影した写真を共有する方法について調べる。画像共有アプリのダウンロード・利用登録を行い、実際に利用してみる。

⑤プレゼンテーションスキルを磨く

プレゼンテーションを効果的に行う方法について学ぶ。上記の①～④の内容を題材として、グループ単位でスライド作成と発表を行う。海外でのプレゼンの機会に備え、スライドの多言語化を図る。

4. おわりに

2017 年度から開講されたグローバル科目群の1つである異文化グループワークの実施内容・方法の検討結果を記した。海外において情報機器やネットワークサービスを活用できるスキルを身につけさせることを目標とした講義内容を検討した。2017 年度後期から講義を実施し、教育内容・方法の検証を行っていく。